

**令和6年度 新潟県立出雲崎高等学校 グランドデザイン** Ver.060408

**教育目標 【 自主・自立の精神に富み、情操豊かで希望に輝く生徒の育成 】**

**グラデュエーションポリシー** (卒業までに育む力)

これから到来する変化の激しい時代においても、Well-Beingな生き方を持続可能にしていくために

- ①【精神的な自立】 自分に向き合って、自分で自分を成長させていける力を育みます。
- ②【社会的な自立】 当事者意識を持ち、より良い社会づくりに取り組む力を育みます。
- ③【経済的な自立】 将来の経済的基盤を確保できる職業人に必要な準備力を育みます。
- ④【希望への輝き】 夢と希望の達成に向けて、粘り強く取り組んでいく力を育みます。
- ⑤【ゆたかな情操】 他者への思いやりと敬意を基本に、他者とのかかわる力を育みます。

**アドミッションポリシー** (期待する入学者像)

教育の力で、無限の可能性を秘めた生徒一人一人を確実に伸ばすためにも、次の姿を期待します。

- ①【本校の理解】 本校の教育目標に価値を見出し、本校で頑張りたいと考えている生徒
- ②【自他の尊重】 みんなが気持ち良く学校生活を過ごせるように、自他を尊重する生徒
- ③【希望と抱負】 学校生活における様々な体験を通して、仲間と情緒的な交流を図り、人間力を育みたい生徒

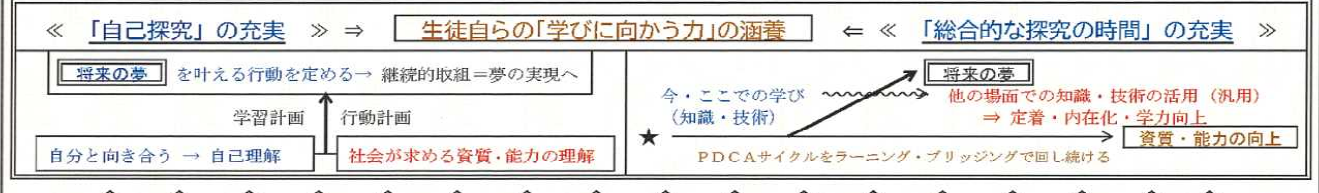
**カリキュラム・ポリシー** (教育課程の方針等) 及び **教育プラン**

出雲崎町にある小規模な単位制・定時制高校の特徴を生かし、個別最適で協働的な学びを実現します。

※グラデュエーション・ポリシーとアドミッション・ポリシーの2つの間を繋ぐのがカリキュラム・ポリシーです。本校は「自己探究」「総合的な探究の時間」を軸としたSTEAM教育の教科横断的教育プラン(下図参照)を推進し、「チーム学校」により、多様な生徒への支援教育の充実、および社会に開かれた学校づくりを進めます。そして、それらを包括した教育活動全体をPDCAサイクルで回しながら、生徒一人一人の発達・成長を図ります。

<p>主な特徴</p> <p><input type="checkbox"/> 少人数制指導    <input type="checkbox"/> チームティーチング    <input type="checkbox"/> 習熟度別学習</p> <p><input type="checkbox"/> 学びのユニバーサルデザイン    <input type="checkbox"/> 単位制    <input type="checkbox"/> 自分だけの時間割</p> <p>※生徒の発達・成長を考慮し、下の①から順番に⑥まで、積み上げていきます。</p> <p>⑥【自己決定する機会】</p> <p>↑</p> <p>・生徒一人一人が、当事者意識を持って物事を捉え、自ら考え、判断し、自己決定していく経験を積むように教育活動を展開します。</p> <p>⑤【教育資源有効活用】</p> <p>↑</p> <p>・生徒一人一人が、自己を取り巻く教育資源を正しく理解し、それらの有効活用を考え、自らの目標を達成できるよう促します。</p> <p>④【PDCAサイクル】</p> <p>↑</p> <p>・生徒一人一人が、各々の活動に目的と目標を見出し、その達成に向け考え、実行し、振り返り、自己成長に繋げる指導を行います。</p> <p>③【学びの価値の実感】</p> <p>↑</p> <p>・生徒一人一人が、学びを楽しみ、学びが自分の可能性を広げていると実感し、好奇心を高め、主体的に取り組める授業を行います。</p> <p>②【自己存在感の感受】</p> <p>↑</p> <p>・生徒一人一人が、自己理解・他者理解を深め、豊かな情緒的交流により自分の存在価値を実感するような教育活動を展開します。</p> <p>①【安全・安心な空間】</p> <p>↑</p> <p>・生徒一人一人が自他を尊重し、お互いの多様な個性を認め合う関係を育み、安全・安心な空間で学習できるように取り組みます。</p>	<p style="text-align: center;"><b>【開かれた学校づくり】</b></p> <div style="text-align: center;"> </div> <p style="text-align: center;">※生徒の発達・成長支援に外部連携も活かします。</p> <div style="text-align: center;"> </div> <p style="text-align: center;">※生徒の発達・成長支援を円環的に取り組みます。</p>
--	---

↑ ↑ ↑ STEAM教育による教科横断的な教育の推進 ↑ ↑ ↑




「安全・安心な空間」の土台作り	学びに向かう力の土台作り	支援教育の土台作り	開かれた学校への土台作り
・生徒との日々の関わりで、生徒への挨拶、声かけ、励まし、賞賛、対話、及び、授業や行事等を通した個と集団への働きかけを大切にします。	・生徒との日々の関わりで、生徒自らが将来の夢に思いを馳せ、進むべき進路の方向性を考え、学びの価値を実感できるような働きかけを大切にします。	・職員研修を体系化し、研修での学びを日常の教育活動に反映します。 ・支援に向けて情報を共有します。 ・日々の教育実践を充実させ、教職員と生徒との信頼の絆を深めます。	・保護者、出雲崎町(自治体、包括連携協定の協力者、地元企業、町民等)、同窓会、福祉事業所、教育機関等と本校(教職員・生徒)の意見交換に務め、相互理解に基づく信頼関係を深めます。


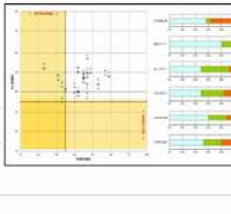


【令和6年度 3つの重点目標に取り組みます】 ※「プロ」の表記はプロジェクトの略であり、本校が重点目標として組織的に取り組む活動であることを示します。 ※「カリマネ」の表記はカリキュラム・マネジメントの略であり、本校の教育活動の中心をなす取組となります。

【Aプロ】 自立を育むカリマネの充実	【Bプロ】 支援教育の仕組みの充実	【Cプロ】 開かれた学校作りの促進
<p>◆「安全・安心な空間」の土台作り</p> <p>◆学びに向かう力の土台作り</p> <p>↓ ↓ ↓ ↓ ↓</p> <p>・「自己探究」「総合的な探究の時間」の活動をSTEAM教育に生かした学びの充実</p> <p>・将来のWell-Beingな生き方に向け、高校生活を如何に過ごすか探究する教育等</p>	<p>◆支援教育の土台作り</p> <p>(①職員研修、②情報共有、③信頼関係)</p> <p>↓ ↓ ↓ ↓ ↓</p> <p>・生徒を多面的・多角的に捉え、支援教育のサイクルを活用した支援の充実</p> <p>・心理学の専門家及び福祉関係機関等と繋がったケース会議、チーム支援等</p>	<p>◆開かれた学校への土台作り</p> <p>(①情報発信、②意見交換、③信頼関係)</p> <p>↓ ↓ ↓ ↓ ↓</p> <p>・本校が出雲崎町を応援し、出雲崎町から本校が応援される双方向の関係性の構築</p> <p>・教育学の専門家及び地域等の意見・評価等を改善に繋げた教育の更なる充実等</p>

〔参考資料2〕 「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策（COCOLOプラン）について」  
 【別添2】 学校風土の把握ツール ASSESS 紹介 （文部科学省ホームページより転載）

## 05. ツール紹介③ ASSESS




<b>特徴</b>	学校環境適応感尺度「アセス」(ASSESS: Adaptation Scale for School Environments on Six Spheres)は、①全体的な適応感である「生活満足感」②教師サポート ③友人サポート ④向社会的スキル ⑤被害感がないかという「非侵害的關係」⑥学習的適応 の6観点で構成され、子どもたちの学校における適応感を多面的に測定する。「ASSESS」は子どもたちの学校における適応感を多面的に測定するツールであり、「B-SAFE」はネットいじめを含むいじめの実態把握に加え、いじめ対策に必要な指導や支援を考えるツール。	
<b>設問数</b>	34問	1. 個別の結果が数値と図で分かる 
<b>適用学年</b>	小学校3～6年(小1・2用は参考用で提供) 中学校1～3年/高等学校1～3年	2. 学級の分布状況が一目で分かる 
<b>実施時間</b>	約10分間	3. 学級全体で注意すべき児童生徒がだれでどこが一覧でわかる 
<b>実施頻度</b>	1回でも可能だが、データに基づく教育実践促進のため年3回程度を推奨 (5月末、11月、2月等)	4. 特徴と対応策をまとめて表示 
<b>回答方法</b>	1人1台端末等を用いてWeb上で回答	
<b>価格(税込) ※1人1回あたり</b>	Web版1人あたり：275円(税込) 3回セット：660円(税込) アセス・B-SAFE年間セット (アセス3回+B-SAFE3回)：1,100円(税込) 自治体での一括申し込みの場合、すべてこの価格の半額で提供	
<b>HP</b>	<a href="https://aises.info/survey/assess/#ass-7">https://aises.info/survey/assess/#ass-7</a>	

〔参考資料3〕 いじめ予防アンケート B-SAFE のアンケート結果の出力イメージについて  
 (公益財団法人学校教育開発研究所 (AISES) ホームページより転載)

B-SAFE出力画面イメージ

### 1 学級の状態(能力や風土)がわかる



**いじめの立場もわかる**  
 例) 加害のみ、被害のみ、加害被害両方、どちらもなし、認知なしなど立場ごとの人数と能力や風土がどこに位置しているか一目でわかる

**次の一手が見える**  
 いじめを抑制すると認められた9つの厳選された取り組みにおいて、児童生徒の認識でどこが少ないかが一目で分かり、次に何を取り組んだらいいかのヒントが得られる

### 2 学級全体で注意すべき児童生徒が誰でもどこが一覧でわかる

能力偏差値・支援偏差値は40未満の部分は赤色、30未満は灰色で塗りつぶしています。教師の認識とズレがないか個人を確認してください。  
 ・加害・被害頻度については、5回以上を5として、ネットのみ4行動、他は3行動の合計、つまり直接・間接は15が、ネットは20が最大値です。5以上の数値(平日5日毎日1回以上)を、注意喚起のために黄色で塗りつぶしています。個人を確認し、声をかけるなど配慮が必要です。  
 ・認知頻度は、「週に5回以上されている人は何人ですか?」と注意すべき人数で、のべ合計人数を示しています。いじめは教師が気付かずにいるので、この数値が多い個人を確認し、関わるようでしたら話を聞くなどの対応が推奨されます。

番号	能力偏差値			支援偏差値			加害頻度			被害頻度			認知頻度		
	いじめ	学力	生活	無防	友人	サポート	直接	間接	ネット	直接	間接	ネット	直接	間接	ネット
1	52	55	49	47	0	1	0	2	2	0	3	1	0		
2	62	50	54	62	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
3	69	59	49	41	2	0	0	1	0	0	3	0	0		
4	59	59	59	62	0	2	0	0	0	0	0	0	0		
5	44	30	43	39	0	6	6	0	0	0	3	0	0		
6	50	47	54	50	3	1	0	2	0	0	0	0	0		
7	45	51	59	50	2	0	0	1	0	0	0	0	0		
8	34	51	46	53	0	1	0	0	0	0	0	0	2		
9	56	51	57	50	5	0	0	6	0	1	0	0	0		
10	47	47	41	47	8	11	9	3	0	0	2	1	1		
11	31	59	51	56	0	0	0	1	0	0	2	0	0		
12	47	43	54	50	0	2	0	0	1	0	0	1	0		
13	50	39	54	32	0	0	0	8	1	0	0	0	0		
14	53	47	51	44	2	1	0	2	0	0	1	1	0		
15	56	59	57	59	1	2	0	0	1	0	0	0	0		
16	59	51	54	50	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
17	40	52	59	59	2	0	0	0	0	0	0	0	0		
18	59	55	51	36	0	0	0	1	4	0	0	0	0		
19	53	59	59	44	5	2	0	5	4	1	0	3	0		
20	59	59	51	47	1	3	1	1	1	0	0	0	0		
21	53	55	43	47											
22	47	47	46	44											
23	56	51	51	59											
24	40	43	36	44											
25	53	47	62	59											

**認知のゆがみ?**  
 クラスで目撃者も被害者も全然いないのに、一人だけ被害・目撃が多い場合など、敏感だったり認知のゆがみがある要配慮な児童生徒が見つかる可能性も!

本校の職員研修で用いた資料は、本校ホームページ(トピック>「お知らせ」>【公開】)から閲覧できます。